

2017年度 立命館大学大学院  
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	公共	90分	問題1、2、3を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の解答用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

\*この問題冊子は、試験終了後に回収します。

## 2017年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 9月一般入学試験

(公共領域)

以下の文章は、日本の戦後史についての入門書からの一節である（成田龍一『戦後史入門』河出文庫 2015、初出は『戦後日本史の考え方・学び方 歴史って何だろう』（2013））。この文章を読んで、問題1、問題2に解答せよ。

そのために、まずは沖縄から考えてみます。

現在の安倍晋三首相は、就任後ほどなくして、4月28日を「主権回復の日」としようと唱えました。実際、2013年4月28日には式典が催されました。4月28日というのは、敗戦後の占領が、サンフランシスコ平和条約の発効をもって終わることになった日です。

日本が占領から脱して主権を回復した日だ、お祝いしよう、というのが安倍首相のいつていることですね。ところが、この催しに沖縄の人たちが強い不快感を示しました。沖縄県議会は全会一致で、反対を決議しました。式典には、沖縄県知事は参加せず、副知事が代理で出席しました。当日、沖縄では抗議集会まで開かれました。なぜでしょうか？

サンフランシスコ平和条約が発効された4月28日は、沖縄あるいは奄美諸島、小笠原諸島といった地域にとっては、日本の主権から外された、つまりアメリカの占領が継続した日を意味するのです。

これらの地域は、奄美は1953年、小笠原は1968年、沖縄は1972年に日本に施政権が返還されるまでずっと、アメリカの占領下におかれていました。4月28日は、そのきっかけになった日ですから、これらの地域の人にとっては「屈辱の日」となります。

反発するのわかるでしょう？ これは本土の人々の歴史感覚と沖縄の人たちがもっている歴史感覚のズレを示している、象徴的な出来事ということができると思います。

沖縄の歴史感覚と本土の歴史感覚が異なるということ。これは、沖縄の人々が経験した歴史と、本土の人々が経験した歴史とが異なっている、ということを考えさせます。年齢や立場、性別や職業によって出来事の受け取り方が異なるということについては、すでに述べてきましたが、地域によってもちがってくるということです。とくに、沖縄はそうした差が強く出る場所だということ。

このことはまた、教科書はひょっとしたら、沖縄のことをあまり考えずに書かれているのではないか、ということを考えさせます。いくら飛躍しながらいうと、教科書は「本土」の立場から書かれているんじゃないか、という思いに至ります。沖縄などの地域の話は、教科書では見えにくくなっているのではないかと。私たちが学習しているのは、本土の立場からの「歴史の語り」ではないのかと。

そういう目でもって、あらためて戦後の日本史を考え直してみようというのが、これからお話ししたいことです。

(中略)

実際の政策がそうであったように、そのことを反映して、教科書も知らず知らずのうちに本土

の基準で考えてしまった、私はそのように思います。本土基準で考えてしまっているため、沖縄にとって深刻な問題、沖縄に集中してあらわれている戦後史の問題を意識することができないのではなかろうか、と思うのです。

このことは、「歴史とは何か」ということにすぐにはね返ってきます。すなわち、沖縄の歴史を書いた部分が薄いのは、教科書が中央、あるいは中心からの目で書かれているのではないか、ということです。いやいや、教科書だけではありません。教科書に代表されるような、私たちの歴史の見方が、中央の目線、中心からの思考であるのではないか、ということです。

いいかえてみれば、沖縄からの歴史、沖縄にとっての歴史を考える必要がある、ということになるでしょう。沖縄の立場、沖縄の視点から、歴史を見直してみるということ。そして、そのことは沖縄だけにかぎらず、〇〇からの歴史、〇〇にとっての歴史ということに通じていきます。

中央／中心の反対語は、「周縁（しゅうえん）」です。周縁から歴史を考えるということによって、いままで見過ごしてきたことがあらためて浮かび上がってくるということになります。周縁から、日本の戦後史を考えたとき、これまで中心目線・中央思考では見えていなかった歴史を発見することができるということですね。

（出典：成田龍一『戦後史入門』、河出書房新社、2015、134-150頁、一部を省略）

#### 問題 1

「沖縄」を見ることから戦後を見直すという著者の問題関心に即して、この文章の内容を200-400字で要約せよ。

#### 問題 2

沖縄以外に、「周縁から歴史を考える」ことになる具体的事例〇〇を1つ挙げ、「〇〇からの歴史、〇〇にとっての歴史」からどのような「中心目線・中央思考では見えていなかった歴史」を読み取ることができるかを800字以内で論ぜよ。

#### 問題 3

以下は、公共領域での研究に関連した用語である。以下の10個の用語の中から3つを選び、その意味を200-400字で説明せよ。

1. 当事者
2. オープンダイアログ
3. ベーシックインカム
4. 医療化
5. ケイパビリティ
6. ナッジ
7. 葉害
8. 生権力・生政治
9. LGBT
10. 日本会議
11. アイデンティティ
12. ジェンダー